



ほけんしつの一と



令和3年10月19日

No. 8

川越市立霞ヶ関東中学校

保健室

～「いのちの教育」第1弾！「救命教育」を実施しました～

川越市では、「いのちの教育」として「がん教育」「救命教育」「性に関する指導」を推進しており、本校でも昨年度に引き続き、外部講師と連携した「いのちの教育」に取り組んでいます。

今年度の「いのちの教育」第1弾は、10月8日（金）に第3学年を対象とし「心肺蘇生法・AEDの活用についての出前授業」を実施しました。当日は、埼玉医科大学総合医療センター救急科 救急救命士のA・Mさん、N・Yさん、看護師のS・Aさん、M・Aさんを講師にお招きし、実技を中心に、心肺蘇生のポイントやAEDの使いかたなどをご指導いただきました。



命を守る 心肺蘇生・AED

反応の確認

- ・倒れている人に近づく前に周囲の安全の確認
- ・肩をたたきながら、声をかける



応援をよぶ

- ・大きな声を出して応援者をよぶ
- ・応援がきたら「119番」通報とAEDを持ってくるようお願いする



呼吸の確認

- ・倒れている人の胸やおなかの動きを6秒くらいで見る
- ・「呼吸がない」「普段のような呼吸ではない」「わからない」場合は胸骨圧迫開始



胸骨圧迫

- ・強く（5cm以上6cm未満）
- ・早く（1分間に100～120回）
- ・絶え間なく（救急車の到着時間の平均は8分！救急隊に引き継ぐまで応援者と協力して）



AED

- ・AEDの音声や表示にしたがって、落ち着いて操作する
- ・AEDが「離れてください」というまでは胸骨圧迫をやめない



生徒の感想

- 救急車がくるまでに8分かかることから、胸骨圧迫が大変だなと思いました。でも、人を助けるためだったらずっとやっていけるとおもいます。この経験をしっかり生かしたいです。
- ビデオをみて、私と同じくらいの年齢の人も突然亡くなってしまうことを知ったので、私ももしかしたらそうなるかもしれないし、まわりの友達がそうなるかもしれないということを頭に入れて、目の前の命を助けるために、自分ができることを全力で行おうと思いました。
- 自分には何もできないから何もしないではなく、今回の授業を生かして自分が何かしたらこの人が助かるかもしれないと思いながら行動できるようにしたいです。
- 普段こんなに心臓ががんばってくれていることを知りました。命を助けるにはアクションを起こすこと、ダメでもチャレンジすることが大切だと知りました。
- 学んだことを学んだだけで終わらせずに、いろいろな人に話したり、伝えたりして、正しい知識を広めていって、1人でも多くの命が助かるようにしたいと思いました。



霞ヶ関東中のAEDは2階職員玄関を入ったところにあります！